いいまちづくり観音寺輝き隊通信

令和六年六月一日 発行

文責：大西
編集：白川

【琴弾公園ヒストリー ㊾】

《琴ヶ濱貞夫》 その2

琴ヶ濱貞夫（ことがはまさだお）は『寛永通宝』が描かれた化粧まわしを身につけた力士です。貞夫は昭和二十年（一九四五年）に戦争が終わると軍隊で覚えた相撲を生かして生きていこうと決心しました。入門後の初土俵は一勝もできず厳しい出発になりましたが、持ち前の根性で激しい稽古を続け昭和二十二年に同じ観音寺出身力士である琴錦（ことにしき）の「琴」（氏神様の琴弾八幡宮から）と郷里の美しい砂浜から『琴ヶ濱』の四股名（しこな）を貰い奮闘しました。猛稽古のせいで左膝を痛め一ヶ月余の入院後「もう相撲は無理かもしれんよ」と宣告されましたが、苦肉の策で右足を軸にして浮いた左足を飛び道具に〈打掛け〉技を考えつき練習を重ねて必殺技に仕上げたのです。後に〈打掛けの名人〉と呼ばれ、昭和三十三年ついに大関にまで登り詰めました。引退後は尾車親方として活躍し昭和五十六年に五十三歳で亡くなりました。

海岸寺の山門　琴ヶ濱関の力士像がある

琴ヶ濱 貞雄（ことがはま さだお）（佐渡ヶ嶽部屋）
●本　名　宇高貞雄
●生年月日　昭和2年10月10日
●出身地　香川県観音寺市観音寺町

体は決して大きくはなかったが、がいこで鍛え上げた赤銅色の体は「四国出身から"南海の黒豹"と呼ばれた。"琴ヶ濱"といえば"内掛けと言われるほど"そのタイミングがよく"一発で相手を倒した内掛けの切れ味は"まさに名人芸と言える。また腰を掘って相手のまわしを切るのも独特のうまさがあった。
大関在位五年二十九場所、朝潮と優勝決定戦を争ったこともあった。
やり"組戸と優勝を争ったこともあった。
佐渡ヶ嶽親方（元琴櫻）のお世話になった。

◇◆公園清掃日について◆◇

今月の清掃日は **6月3日です。**

午前八時～九時（雨天：6月10日）

琴弾公園の池付近に集合
みんなでいい汗を流しましょう。

※問い合わせ080-3211-1962

【琴弾公園クイズ 62】

琴弾山にある石井朝太郎の歌碑

『動くとも　みえぬ白帆の連なりて
○○しずかなり　せとの内海』

この○○に入る言葉は？

①あさ　②ひる　③よる

寛雑談■永

日本の相撲の起源は神話の時代までさかのぼると言われています。そこからの長い間、力くらべの競技として、農作物の豊作を願う神事として、日本の文化・歴史の中でいつも私たちの生活の身近な存在となっています。本場所では私の百一歳の母もテレビに贔屓の力士が出てくると一生懸命に応援します。

本場所で使われる土俵は毎回手作業で全て作り直され（国技館での開催時は表面の部分のみ新しい土になる）初日の前日には土俵祭という厳粛な神事が行われます。これは神さまに土俵に降りてきていただき、場所中の安全と興行の成功・国家の安泰・五穀豊穣を祈願するもので、一般の見学も可能だそうです。そして千秋楽には神送りの儀式として神さまに天に帰っていただくために行司を胴上げします。ちょっと意外な儀式ですが大切にしたい文化ですね。

（M）

『輝き隊通信バックナンバー』と検索または下のQRコードからこの通信のバックナンバーを見ることができます。また観音寺市のホームページからも輝き隊通信は閲覧できます。

https://kagayakitai.mebaownd.com/

◆いいまちづくり観音寺輝き隊◆

私たちは「琴弾公園の魅力を高めること」を主な目的にしている小さな団体です。歴史的なものを見直し郷土愛を高め、まちをもっと元気にしようと頑張っています。